

(平成30年度学校自己評価のまとめ)

- ・今年度の自己評価(学校全体ができているかを4段階で評価)の全体平均が3. 28であり、昨年度の3. 24から0. 04上がった。
- ・今年度の自己評価の全体平均の高い評価項目は、家庭地域との連携・情報発信3. 52、地域貢献3. 82、進路指導体制の充実3. 58、高大連携・外部講師の活用3. 58である。(＊3. 50以上の項目)
- ・今年度の自己評価の全体平均の低い評価項目は、授業計画の作成2. 94、家庭学習の習慣付け2. 79である。(＊3. 00未満の項目)
- ・今年度の自己評価の全体平均が昨年度の自己評価の全体平均を上回った評価項目(＊0. 10以上)は地域貢献0. 19、進路指導体制の充実0. 11、計画性をもった研修の実施0. 10、体験的・問題解決学習0. 10、教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上0. 18、人権教育推進体制への取組み0. 15、図書館・情報機器の活用0. 10、高大連携・外部講師の活用0. 19である。
- ・今年度の自己評価の全体平均が昨年度の自己評価の全体平均を下回った評価項目(＊0. 10以上)は、総合的な学習の時間－0. 14である。
- ・20項目中14項目において、今年度の自己評価の全体平均が昨年度の自己評価の全体平均を上回った。

段階（４：よくできた、３：できた、２：あまりできなかった、１：できなかった） ※学校全体できているかを評価（教員３３名実施）												
領域	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	今年度平均	昨年度平均	増減	今年度回答				学校評議員の意見
								4	3	2	1	
学校運営	学校運営全般	校務分掌における取組み	1	各分掌の重点目標を設定し、取組みについて評価・見直しを行う。	3.30	3.29	0.01	10	23	0	0	・学校運営に対する外部専門職のアドバイスは必要ないのではないかな。
	開かれた学校づくり	家庭地域との連携・情報発信	2	懇談会・面談・学年通信等の発行を行うなど、家庭との連絡を密にする。ホームページを充実させ、地域への情報発信を行う。	3.52	3.53	-0.01	17	16	0	0	・PTAの広報担当の方にも定期的に投稿してもらうなど、複数の視点からの投稿もあると閲覧者もさらに増えると思います。 ・HPの充実により、生徒の日常活動を知らせることを、今後も続けてほしい。 ・生徒の家庭と連携を密にしてほしい。 ・職員の不祥事は、社会の信用失墜となる。 ・つなログで子供たちの活動がより伝わってくる。 ・HPでは、できたら翌月の予定は最低でも伝えてもらえれば助かる。 ・津名のブログはわかりやすい。 ・教育の場でも、SNSの講師によるSNSの使い方等をお願いしたい。
		地域貢献	3	親睦会、ふれあいコンサート、音楽における中高連携、ボランティア活動等の活動において地域に親しまれる学校づくりを行う。	3.82	3.63	0.19	27	6	0	0	・文化部和地元文化協会加盟団体とのジョイントコンサート等、様々な団体とのコラボを加えられるとさらにいいと思います。 ・ふるさと貢献事業に地域の共同も入れてほしい。 ・地域力の広がりを高めることが課題である。 ・幅広く、地域に周知されているが、より一層の親しまれる学校づくりを望みます。
	生徒指導	生徒の自主活動領域の拡大を図る取組	4	生徒会や委員会の自主的な活動・取り組みを発展させ自立の意識を高める。	3.12	3.11	0.01	6	25	2	0	・「少年は必要とされて大人になる！」やはり生徒会を担う生徒には適宜役割を与えていくことによって、よりリーダーシップが高まると思います。 ・具体的には「防災」「防犯」等の津名高校周辺の危険箇所のハザードマップづくりとか、津名中学や淡路市とも連携してやれたらいい。 ・様々な活動により、生徒自身の自己表現力、発表力、国語力の向上を期待します。 ・具体的な生徒会活動を例に示して、「自立の意識を高める効果ある事例は何か」を考えさせる。
		校則を遵守し、マナーを向上させる取組	5	生徒の校則に対する意識を向上させ、自律的に守れるようにする。保護者と共通理解を深め、協力を得る。社会のルールや交通マナーを守り、健康・安全に生活を送れるように努める。	3.30	3.29	0.01	10	23	0	0	・社会人として必要な「マナー」を考えるという切り口で、「身だしなみ」や「登下校時の交通マナー」など、アクティブ・ラーニングの手法を活用して、生徒自身に考えさせていけばいいと思います。 ・マナーや、校則の指導に関しては素晴らしい適切に行っていると思います。特に医療系を志す生徒に関しては、プライバシーの取り扱いやSNSの使い方等、社会のルールを遵守できる姿勢を、より一層養うような指導を心がけていただきたいです。 ・学校に誇りをもつこと。そのために生徒の生活態度が一致することが大事だと思います。 ・生徒と保護者について、社会のルール、交通マナーを守ることを、明確に示すように希望します。
		生徒理解を深め教育活動に生かす取組	6	カウンセリングマインドをもって生徒と接し、面談機会を十分に設定し、内面的な理解をはかる。	3.30	3.29	0.01	13	17	3	0	・心のケアを必要とする生徒は今後もさらに増加していくと思いますので、県教委だけでなく、せつかく近くに看護大もあるので、看護大の先生方や学生とも何らかの形で連携できるといいと思います。 ・担当職員の充実が課題である。スムーズな関わりを生み出してほしい。 ・カウンセリングの前年度の比較をしたらいい。時間、内容、対処法等、一人当たりの重要度を調査してはどうか。
	進路指導	進路指導体制の充実	7	進路指導部と各学年が連携をとり、組織的に進路指導を進める。	3.58	3.47	0.11	19	14	0	0	・eポートフォリオ対策も含めて、生徒自身が「自らをどう育てていくか?」「何をこれまでやってきたのか?」をまとめながら、自分の進路選択を考えていく方向が主流となると思います。そのためにリボーンプロジェクトのような「探求」学習をより一層進めていただきたいと思います。 ・進路指導を個人の生徒の意志に応じて必要なサポートをしてほしい。具体性が大事で、大学見学等、勉学の意識向上を促してほしい。 ・進路ガイダンスについて、一人一人の生徒と向き合える時間に限りがあるため、重点とする生徒に時間を配分してはどうか。
		進路意識の向上	8	進路学習・ガイダンスを推進し、進路意識を向上させる。	3.45	3.53	-0.08	15	18	0	0	・今までの進路ガイダンスは十分に素晴らしいかと思います。近年医療系、特に看護の世界では、看護師の教育は大学を中心しようという傾向がありますので、看護師志望の生徒にはそのように周知をしていただきたいと思います。 ・模試の結果を通じて、指導をきめ細やかに行ってほしい。 ・進路変更が可能のように柔軟に対応するのが良い。
	教職員の資質向上	計画性をもった研修の実施	9	教職員が研究授業や研修を行い、授業改善、学校の諸課題についての解決能力など実践的指導力の向上に努める。	3.21	3.11	0.10	8	24	1	0	・先生はとてもお忙しいと思いますが、生徒の興味関心を高める実験的な授業展開例を、是非共同研究で進めていただければと思います。 ・「こんなことやってみたらどうだろう?」「このお話は地域の当事者である〇〇さんに直接お話ししてもらおう!」とか、地域の多世代の人材を活用していけば、新学習指導要領への対応力も向上すると思います。 ・他校の公開授業に少なくとも年1回出席できるよう、先生にゆとりをもてるように計画してほしい。 ・先進校の見学を重視してほしい。 ・研究施設や外部教育機関、さらに企業の研究施設等を参考にしていただきたい。
		読書啓発	10	「朝の読書運動」を通じて、生徒の心豊かな人間性、思考力、想像力、言語力などの育成をはかる。	3.42	3.37	0.05	16	15	2	0	・ビブリオバトルを活用し、生徒間で面白い本の紹介を活性化させて、読書習慣の一層の活性化を図っていただきたいと思います。 ・長期休暇前の学年集会等で、先生方のビブリオバトルをされてはいかがでしょうか?先生の愛読書を紹介するのもいいと思います。 ・読書啓発の活動に関しては非常に感心しております。しかし、分からない漢字を読み飛ばしてしまっており、読み書きの力がついていない生徒がいることもまた事実です。こういった活動の中で、漢字を読む・書くという機会をもう少し増やしていただければ、将来の進学においてより有意義な時間となるかと思ひます。 ・読書活動によって得たことを発表し合い、相互に向上できるよう工夫をすればいいと思います。 ・自由な発想で、様々な分野の書籍を読む機会をお願いしたい。
教育課程	自ら学び考える力を育成する取組	総合的な学習の時間	11	総合的な学習の時間を通じて、自ら学び考える力や、探求活動に主体的に取り組む態度を育てる。	3.33	3.47	-0.14	14	16	3	0	・リボーンプロジェクトのさらなる発展に期待しています。 ・校内だけでなく、県民局が主催する「地域ゆめ会議」や「地域ビジョン」委員会等で優秀な取組については発表の機会を持ていただくなど、地域への発信のしきみを整えられると、生徒さんの「やる気」もさらにUPするかなと思います。 ・外部講師にもっと密接に接することが望ましいと思います。たとえば、学年単位か1クラス単位で自由に質疑できるようにする等です。 ・リボーンプロジェクトは大変素晴らしい企画発表です。インターネットの資料づくりも指導願いたい。
		体験的・問題解決学習	12	各教科において体験的・問題解決的な学習を展開する。	3.15	3.05	0.10	8	22	3	0	・授業の単元に合わせて、生徒自身に「学習のめあて」を考えさせるのも一つの方法かと思ひます。 ・参加型のワークと、その「ワーク」から得た学びや気づきを定着させる「講義」の組み合わせがいいと思います。 ・意見交換を活性化するための工夫がいると思います。小グループで、しかも書いた意見ではなく、その場で意見を交わすための国語力を養ってほしい。 ・企画調整は難しいが、体験的問題解決的な学習は大変素晴らしいと思う。
		適切なカリキュラムの作成	13	生徒の興味関心と進路に対応した適切なカリキュラムを作成する。	3.06	3.08	-0.02	5	25	3	0	・カリキュラムマネジメントにおいて、学校主導で提示するだけでなく、生徒自身が何を学び、進路選択において必要なことをまず考えてみる時間も必要かなと思います。 ・個々の生徒が考えたカリキュラムをもとに、進路ガイダンスを実施して、個々の進路を目指すために必要なカリキュラムは何か?学ぶべきことは何かを共に考えるプロセスを教師と生徒が共有していくことが求められていると思います。 ・授業形態を刷新することが必要です。参加力を増すためには、グループ単位での授業の取り組みも必要です。そのために教員数の増加が必須だと思います。 ・臨時講師を派遣してもらい、新カリキュラムの対応をしたらどうでしょうか。
	基礎・基本の定着	授業計画の作成	14	年度当初に各教科で基礎・基本の定着を図る授業計画の作成と取り組みを行う。	2.94	2.95	-0.01	5	21	7	0	・授業において、生徒の意欲が向上するかどうかをチェックする必要があります。 ・計画と学びに生徒とのズレがある。 ・前年の反省が生かされているような仕組みはないのか。 ・年間計画とは、実際には計画どおりいかないことはよくある。逆にプラスにして計画変更をすることもありだと思う。
		指導形態の工夫	15	習熟度別授業、少人数授業を充実させ、個に応じた学習指導を行う。	3.24	3.32	-0.08	10	21	2	0	・教員の働き方改革のためにも、習熟度別授業を実施して、生徒の学力の定着度を上げ、放課後の補習の時間の削減を行うなどの工夫も必要かなと思います。 ・スポーツの世界のようにトップアスリートをめざす選手にはそれなりの教科カリキュラムをする必要があります。平均的な知識、就職等に必要なレベルの教科カリキュラムの二本立てでもよいように思ひます。 ・現在の実践を継続し深化させてほしい。 ・小テスト実施時に高得点者を公表して、学習意欲を増す取り組みをすることはどうだろうか。
		家庭学習の習慣付け	16	自発的に課題・予習・復習など家庭学習を行う習慣を付ける指導をする。	2.79	2.76	0.03	4	18	11	0	・生徒の家庭のバックアップをどうするかが問われています。成果が見えないのは残念だが、学習の楽しさが実感できるよう、学習の習慣が問われている。 ・自分自身の将来と向き合うための目的を設定する時期が遅いと高校3年間のデザインが行いにくいと感じる。今の取り組みをもう少し早くすることを期待します。 ・意識の高い生徒順に並べて、少しでも競争心を持たせてはどうだろうか。 ・家庭学習の評価が低い。学習ノートにチェックを入れるなど、意識づけることが必要であり、親に見えるような指導が必要だと思います。
課題教育	防災・安全教育	17	生徒・職員の防災訓練、救急救命講習を行い実践的な安全教育を実施する。学校の実情に応じた「警備及び防災マニュアル」を作成し、定期的に対応訓練を行う。	3.42	3.24	0.18	14	19	0	0	・県教委主催の「防災ジュニアリーダー育成事業」への参加に留まらず、淡路広域消防や県民局、そして淡路市とも連携しながら、津名高生の「防災・減災力」を高める仕組みづくりをされてはどうでしょうか。 ・現状で充分である。 ・被災地へボランティア活動をした生徒の発表する機会(報告書でもOK)を与えてみてはどうか。	
	人権教育の推進	18	ホームルーム活動、教科指導、学校行事等を通して、あらゆる方面で人権教育・道徳教育を推進する。	3.15	3	0.15	8	22	3	0	・人権を無視する世の中に警笛をならすためにも、批判能力を育てたい。 ・現在のSNSへの動画等による掲載についての社会問題は、モラル、人権意識が欠落している。 ・正しい人権意識を保有させる取り組みを考えさせてはどうか。	
	設備・機器の利用	19	図書館を利用した調べ学習、コンピュータ、AV機器を利用した視聴覚教育等、指導方法の工夫・改善につとめる。	3.18	3.08	0.10	8	23	2	0	・図書館情報システムは是非、これまでも連携の実績のある兵庫県立図書館にご相談されることをお勧めします。県立図書館の横断検索システムに載せられるようなシステムにすると、県下の公立図書館や大学図書館ともネットワークを組めるので、生徒の「探求」に必要な図書の検索にも役立つかと思ひます。 ・情報機器の充実を促して、活用を促進すべきである。 ・外部専門家と積極的に連携してはどうか。 ・ハードとは違い、有効なソフトを活用することが良いのではないかな。	
	学校特色化	20	大学や研究機関との連携を深め、教科や進路についての理解を深めるとともに、学力向上を目指した取り組みを行う。	3.58	3.39	0.19	19	14	0	0	・リボーンプロジェクトのような「探求」、課題解決型学習のロジカルな部分を大学の先生方に担っていただき、その方法を生徒自身が応用させていような仕組みづくりができればよりいいかと思ひます。 ・インスパイア事業の充実・発展を希望します。 ・学年を広い体育館に集める形式から、もう少し小さなグループで講師との接触が密になるように工夫してほしい。 ・総合的な学習の時間で、さらに外部との連携を促してほしい。	
全体					3.28	3.24	0.04					